

超不思議マガジン 2000年6月号掲載

「オカルト新解釈 第二十五回」岩石信仰編」

石、とりわけ岩というものからなにを連想するだろうか。硬い、重い、大きい——その多くが外部からの影響を拒絶するような言葉だろう。

翻るとそれらの言葉は、何事にも動じず、ただそこにあり続けるという不滅性を表している。そんなある種、私たちが手出しできない自然の力強さの象徴として、古来から石や岩は人間にとって神聖な存在だった。

八百万の神々を祀り続け、アニミズムが染みついた日本人はなおのことだ。仏や神を岩に彫ることはもちろん、岩自体を本尊として信仰することも多い。巨岩信仰や奇岩信仰などがい例だろう。ほかにも磐座（いわくら）と呼ばれる神が降り立つ場所は日本各地に見られる。

あえて反オカル的な立場で語るとすれば、祀られるのが巨岩や奇岩であることには説明がつく。言ってみれば理由づけだろう。山が多く、自然豊かな日本には岩や石などがあるところに見られる。祀る対象が樹木であれば、わかりやすい指標としての樹齢があるが、岩や石などの場合はそれを外見からはなかなか判別しづらい。そのなかからあえてそれを選ぶ口実として、「巨大さ」や「奇妙さ」を求めたのだろう。

だがご存じのとおり本誌はオカルト専門誌だ。そんな野暮な理由づけで終わらせるつもりは毛頭ない。そこには超常的な存在が潜んでいるのだ。

「モノリス」と書けば、この時点でオカルトファンはニヤリとするだろう。ギリシャ語で「ひとつ」を表す「mono」と「石」を表す「lith」が組み合わされた言葉だ。名前のとおり、一枚岩や石柱を指す。だがその言葉が使われる際、往々にしてオカルト的な意味合いを含んでいる。

モノリスのなかで最も有名なのが、伝説的SF作品である『2001年宇宙の旅』に登場するものだろう。明らかに自然物ではない、整った四角柱の形状をした、滑らかな黒色の岩。これは作中で地球外の知的生命体からもたらされた装置として描かれている。

現実世界ではイースター島のモアイ像やエジプトのスフィンクス像もモノリスに分類されることがある。周知の事実だが、いずれも未知の知的生命体との関与が疑われるものだ。

ここで、古く日本各地に伝わる伝承を紹介したい。いくつかのパターンは存在するが、概ね次のような内容だ。

語り手はある日、海岸に奇妙な形の船が流れつくのを目にする。それは知られている船の形状とは全く異なり、丸い形をしていて、さらには船体にガラスがはめ込まれている。その船には異国の人間と思われる女が乗っており、言葉が通じない。

そのほかにも、船内に異国の文字が書かれていたり、女が大切に箱を抱えているなど奇妙な点はいくつもあるが、大筋は外界から異国の船で奇妙な姿の女が現れるといった内容の伝承だ。

これはいわゆる「虚舟（うつろぶね）」や「空穂船（うつぼぶね）」といった名前で伝えられている。

こちらにも先に挙げたモノリスの例と同様に、地球外生命体と関連づけて語られることが多い。丸い船と聞けば誰もが思い浮かべるであろう、UFOだ。

日本各地の巨岩・奇岩信仰に話を戻そう。そういった信仰で語られる起こりのいくつかには、類似点が認められている。

かき二梯ではない？

奇岩↓隕石？

本尊となる岩や石がある日突然現れたというものだ。それを神の顕現と捉えた人々が祀ったのが発祥だという。

何の前触れもなく巨大な岩が現れるという逸話はなにも日本に限ったことではない。現れでは消える岩や、移動する岩など、世界全土でその例が確認されている。

そしてその際に必ずセットで語られるのが、「隕石説」だ。突然に現れる岩に対しての合理的な説明としては、ある程度の説得力があるからだ。

だがその説得力はあくまで現代の私たちにとつてのものだ。隕石という概念がなかった昔の人たちにとってはどうだろう。ある日急に巨大な、もしくは奇妙な形の、それも見慣れない岩が現れたとき、神が現れたと考えるのも無理はないのかもしれない。

また、隕石が降ってくる場所が砂浜だった場合はどうだろう。その見慣れない形状を「異国から流れついた得体のしれない船」と伝えることもあるのかもしれない。

「無理やり理由をこじつけた、反オカルトではないか」。ここまで読まれた読者の心の声が聞こえてきそう。心配しないでいただきたい。本題はここからだ。

瀬野は嘘をついて
いた？

地球外生命体には、いくつかの種類がある。世間一般に浸透している宇宙人と言えば、頭の大きなグレイ、つまりはヒューマノイドに属するタイプだ。そのほか有名なのはタコ型の形状が代表的なアニマリアンだろう。しかし、その他にも多数の種類が存在することを忘れてはならない。アメーバのように不定形のものや、ウィルスのような微生物の形をとるもの、果ては意識のみで存在する「パリスシヨナル」と呼ばれるものまで多岐にわたる。

ヒューマノイドやアニマリアンといった実体をともなうものなら、UFOに乗って地球に飛来することもあるだろう。だが、それ以外のタイプは必ずしもそういった飛行船を必要とはしない。たとえば隕石にとりついて（もしくはたまたま附着して）、飛来することも考えられる。人間には岩のように見えるだけで、それ自身が生きているという可能性すらあるだろう。

生きた岩

